

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度第2回ふじみ野市放課後子ども教室運営委員会会議			
開催日時	令和7年12月26日（金） 開会時刻 午前10時30分 閉会時刻 午前11時00分			
開催場所	ふじみ野市役所第4庁舎2階D201会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	委員長	青柳一美	委員	清水篤史
	副委員長	山崎博	事務局 (課長)	木村裕之
	委員	湯本貴幸	事務局 (副課長)	鍋島直久
	委員	田邊紗菜	事務局 (係長)	笠掛裕子
	委員	柳川智哉	事務局 (主任)	近藤彩香
	委員	堀内一男	事務局 (会計年度 任用職員)	宮内菊枝
	委員	桑子恵美	統括コー ディネーター	伊藤照子
会議の議題	議事 1 令和7年度2学期の放課後子ども教室の活動状況について 2 その他			
会議の公開又は 非公開の別	公開			
会議の非公開の 理由				
傍聴人の数	0人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	教育部社会教育課			

議 事 の 確 定	確定年月日	令和8年1月15日
	記名押印 又は署名	役職名  議長 青 柳 一 美 ㊟  ※自署の場合は、押印不要です。

別紙

発言者	発言の要旨
事務局 (木村)	開会及び会議の成立の報告 ・出席者8名、欠席者3名で会議成立と傍聴者0名を報告
青柳議長	開会挨拶
事務局 (木村)	ここからの議事については、青柳委員長に議長として進行を依頼。
青柳議長	進行
事務局 (近藤)	会議資料確認
青柳議長	議事進行
事務局 (近藤)	議事(1) 令和7年度2学期の放課後子ども教室の活動状況について ・資料1「令和7年度2学期放課後子ども教室 全校活動報告」 ・資料2「令和7年度2学期放課後子ども教室 運営報告」に基づき、令和7年度2学期の放課後子ども教室の活動状況について説明。 (実施回数、放課後児童クラブとの連携状況、外部講師派遣状況、文京学院大学との連携状況、怪我・事故報告、指導員体制等について)
青柳議長	議事進行 質疑応答(質問なし)
青柳議長	議事進行
事務局 (笠掛)	議事(2) その他 昨日開催された指導員代表者会議にて指導員から報告事項を抜粋してお伝えさせていただく。 ・外国籍児童への対応について、直近での問題は生じていないが、言語面での対応が課題としてあげられた。事務局も共通の認識であり、順次検討を進めていきたいと考えている。 ・文京学院大学との連携について、大学生が参加した10校からは大変好評であった報告があげられた。しかしながら参加できなかった2校か

らは児童が残念がるのはもとより、学校の先生方からも残念がる声があったとの報告もあった。

・2学期の活動ということで、児童が教室や指導員に慣れたこともあり、言葉遣いの問題があげられた。子どもたち同士や指導員に対して言葉遣いが荒い児童に対しては、3学期も引き続き根気強く向き合っていきたいという報告があった。

・ある学校にて、放課後子ども教室の消耗品等を保管しているロッカーの鍵穴に接着剤が流し込まれるいたずらが2回に渡り発生した。施錠していない教室であったため誰がやったかは不明だが、当該校についてはロッカーに入っていた貴重品類は学校の協力を得て職員室での保管とした。

・各校の支援を必要とする児童については、放課後子ども教室の雰囲気にも慣れてきて楽しく参加できており、特別支援サポーターを中心にその子の特性を理解しながら対応しているという前向きな報告があった。

青柳議長

議事進行  
質疑応答

青柳議長

文京学院大学の学生は若さと体力があり児童とも本気で遊んでくれていて、指導員としても大変有難く感じている。児童も大変懐いているので、来年度以降も引き続き連携をお願いしたいと思っている。

桑子委員

支援が必要な児童は何名くらいいるのか。

事務局  
(笠掛)

指導員代表者会議にて報告があったのは全体で3名。

放課後子ども教室の登録児童の中で特別支援学級に通っている児童は他にもいるが、活動に支障なく参加できているというケースも多い。

桑子委員

放課後児童クラブでは東西1,600名ほどの登録の中の50名ほどで、加配を付けて対応している状況である。

青柳議長

支援を要する児童がいる学校には特別支援サポーターを配置している。放課後子ども教室の児童は授業とは異なる雰囲気ですべて的にテンションが高く、そういった雰囲気の中で支援を要する児童も突発的な行動を取ってしまう場合がある。そういった場合必ず指導員が付き添うようにしていて大きな問題は防げている。

清水委員	<p>青柳議長をはじめ指導員の皆さまには児童のためにご尽力いただき感謝している。季節に合ったイベントや工作も非常に工夫されていて、児童が楽しめるよう細かく計算しつくされていることに感心している。</p> <p>社会教育課より外国籍の児童への対応について報告があったが、放課後子ども教室ではどのような問題を抱えていて、今時点でどのような対応策を検討されているのか伺いたい。対応に苦慮しているのであれば、学校現場でも外国籍児童が増加している状況があり、対応方法が参考になるかもしれない。</p>
事務局 (笠掛)	<p>現在進行形の問題ではないが、中国籍の参加児童で、保護者も含め日本語が通じない世帯があり、連絡手段等に苦慮していた。特別支援サポーターが中国語を話すことができたが、常時配置することは難しく、不在時の対応を検討しており、学校で使用しているタブレットの余剰分をお借りして翻訳アプリ又はA Iを使用する対応を検討していた。その検討を進めている段階でその当該児童が転出となったため一時その検討は中断してしましたが、この問題はどの学校でも起こりうることであるため、学校教育課や学校と相談しながら検討を進めていきたいと考えている。</p>
清水委員	<p>議会でも学校での外国籍児童への対応は話題にあがっていて、以前自分が学校現場にいた際にもタブレットを使用した翻訳アプリなどを活用してみたが日常的には使いにくく、費用はかかってしまうが「ポケット」を購入した。タブレットを立ち上げたり、検索したりするタイムラグもなく、職員からの評判がとても良い。予算の問題もあると思うが、市内の状況を見ても急増しているように感じているため、これから先そういう対応も検討が求められるのではないかと。</p>
青柳議長	議事進行
山崎副議長	閉会の挨拶